

水環境・海域(3) (1-C-15-2~1-C-16-3)

1-C-15-2~1-C-16-3の6課題において座長を務めた。

1-C-15-2では、水中の硝酸イオンの測定に操作上危険が無い亜鉛粉末を用いたキットの開発に取り組んだものである。塩分0-30 psuの広い範囲で、従来のCd-Cu還元カラムを用いる方法と良い相関があり、信頼性が高いことが分かった。ただし、質問にあったように、キット(使い捨て注射器使用)の操作において、5分間ゆっくりと手動でサンプルを通すという点がやや現実的でないようであった。

1-C-15-3は、隅田川河口部における2005年11月の赤潮の発生条件と原因について考察を行ったものである。確証的な原因はつかめていないようであり、今後のモニタリングデータの蓄積に期待された。

1-C-15-4では、遺伝子解析を行うことで、広島湾内のアマモ群落間の遺伝的近さから分布拡大の状況を明らかにしたものである。内容の本筋ではないが、台風のようなイベントによってバイオマスが大きく変動することも報告された。

1-C-16-1は、アカモク群落の消長とそれに蝟集するヨコエビ類の出現状況を報告したものである。これらの捕食・被捕食関係について質問があったが、明快な回答は得られなかった。

1-C-16-2は、アカモクが細胞外生産するアレロパシー原因物質が珪藻スケルトネマの増殖に与える影響をモデル化したものであり、興味深い。この類の研究は少なく、学術的にかなり高いものであると評価された。

1-C-16-3では、海水中からリン資源の回収を行うことをねらった研究であり、さまざまな条件で、回収率を調べたものである。すでに汚水中などからの研究は進んでいるが、海水をターゲットとした研究はスタート地点に立ったばかりであり、今後の発展が期待される。

(広島大学 山本 民次)